

2018 年度 運動会報告書

開催日：2018 年 10 月 27 日土曜日

リーダー：コッシオ 祐実、大嶋 さと子

サブリーダー：浅野 ゆきえ、山城 歩

- リーダーの変更：

今年度はリーダーが変更し、コッシオ及び大嶋が新リーダーとして運動会の企画及び運営を担当。前年度リーダーからの引継ぎがなく、残されていた資料のみを基に運動会の企画、準備を行った為、多大な時間と労力が必要であった。残されていた資料も、PDF 形式の物が多く、今年度の資料作成の際に使用できないものが多々あり不便であったため、今年度の資料は WORD 形式で作成。来年度の資料作成の際に使用できるようにした。

- 運動会系の業務について：

- 準備段階：9 月に入ってから新リーダー決定、9 月 15 日第一回ミーティングを開催、運動会準備を本格的に始動させた。10 月 6 日第 2 回ミーティング、そして本番一週間前 10 月 20 日にリハーサルを行った。第二回ミーティング後に小物係と共に備品をチェック。足りないものを手分けして作成した。
- 当日：午前の部は 8 時 45 分準備開始予定であったが、学校の目の前で発生した火事が原因で、道路が閉鎖されバスの運行も中止されていたため、集まったメンバーから徐々に準備を開始。9 時 45 分頃すべての準備が終了。

- 火事の影響：

当日の朝 8 時過ぎに発生した火事の影響で、QueenMary 通りが閉鎖され車及び徒歩での進入が不可能となった。運動会開催時間になっても道路閉鎖は解除されておらず、生徒及び父兄は学校裏の入り口から入らざるを得なかった。そのため、遅れてくる生徒が多々見受けられたことから、開会式開催時間を 10 分遅らせ、10 時 10 分から開始した。その時点では全ての生徒が会場に到着していた。この影響で午前の部の終了時刻が遅れ、お昼休憩開始時刻が 11 時 45 分となってしまったが、午後の部開始時間は変更せず 12 時 30 分のままにした。なお、午前の部開会式までの待ち時間が長かった上に、開始時刻が明確に伝わっていなかった為、先生方や生徒達に負担がかかってしまった。次回プログラムに変更がある際は、こまめにアナウンスを入れて会場の人たちに状況を伝えていく必要がある。

- 進行具合について：

- 火事の影響で午前部の終了時刻が遅れてしまったが、お昼休憩は予定通り12時半までとし、午後の部を開始させた。それでも生徒たちは十分昼食を食べる時間があつたように見られる。午後の部は、スタート時刻は予定通りだったものの、大幅に時間が押してしまい、補習校に生徒がいる保護者は最後まで残ることができず、途中で解散するケースがみられた。生徒の誘導を細かく区切りすぎて時間がかかってしまった、又、大縄飛びの競技時間が長かつた2点が主な原因であると思われる。
- 各競技の間の指示が遅く、競技前の整列、競技後の待機位置が明確でなく、先生方に走り回ってもらわなければならなかつた。次回からは事前に先生方に整列位置、待機位置、競技後の誘導場所を伝えておくべきである。また、誘導の役員を各競技増やし、誘導がスムーズにいく様に心がける。
- 競技の説明が複雑で、子供たちに分かりずらかつた。説明をシンプルにするべき。

- 各競技について：

午前部の部：

- 1) 玉入れ競技：幼児2の籠が高すぎ、玉が10個くらいしか入らなかつた。来年は幼児1同様、一番下の穴を使用すべき。成人・父兄の競技の際、参加人数分のはちまきがなかつたため、はちまきが無くてもそのまま参加してもらつた。参加人数に比べ玉が少なく心配したが、みんな楽しんでいるようだつた。
- 2) 親子競技：例年に比べ、集合と整列に時間がかかつた。保護者が競技内容を把握していないようであつたので、保護者一斉メールなどで事前に知らせておくべきである。競技の最後に紅・白どちらかだけが残つてしまう状況だつたが、係の者が調整してなるべく赤白両方の組が全てのレースに出ていると良い。
- 3) おせんべい競争：せんべいを吊るすポールについている洗濯ばさみは、劣化しているものが多いので、事前に強度を調べておく必要がある。競技中に破損して、その都度新しいものに交換しなくてはならなかつた。せんべい競争中に使用したせんべいは、レース後に景品として使用したが、割れてしまつたものが多かつたので、来年はお煎餅の代わりになるもの（段ボールで作つたお煎餅など）をレース中に使用し、景品のお煎餅はレースに使わない方が良い。ゴール地点でのせんべい回収は左右両方で行うとスムーズになる。

午後部の部：

- 1) 玉入れ競技：児童1の籠の高さが高すぎたため、当日急遽変更しマニュアルにある高さより一つ下げて競技を行つた。
- 2) せんべい競争：各レースにおいて、紅組もしくは白組のみしかいないレースについては、公平を保つため得点は加算せずに置いた。
- 3) 障害物競走：競技前の誘導が細かく区切つてあつたため、その度観客の関心が絶たれてしまい競技が長く感じられた。来年は誘導は2回位に分け（例：児童1～3+はなび / 児童4～6+中高等）、

進行をスムーズにした方がよい。レース前、生徒たちが赤組と白組に分かれて並んでいたが、片方のチームだけが毎回内側に来るのを避けるため、スタッフが交互に入れ替えスタートさせていた。ボール運びのお玉は、ばらばらで簡単なものと難しいものがあり、このまま来年も使うか、それともすべて同じお玉に統一するべきなのか、話し合う必要がある。各レースにおいて、紅組もしくは白組のみしかいないレースについては、公平を保つため得点は加算せずに置いた。

- 4) 大縄跳び：競技時間 2 分は児童 1, 2 及びはなびクラスには長すぎるように思われた。また競技に長時間を要するため、待っている生徒や観客が飽きてしまっていたので、来年からは児童高学年、および中等クラスだけに限定して行うべきではないか。なお、本番一週間前のリハーサルの際に生徒達に来てもらって練習してもらった方がいいのではないか。
- 5) 綱引き：大変盛り上がった。来年もぜひ組み入れたい競技。

● 来年度に向けての提案：

- 今年度から、親子競争、おせんべい競争、および障害物競走で、1 等と 2 等の生徒にシールを張った。この目的は順番をわかりやすくするためであったが、シールをもらった生徒たちは誇らしげであったので、来年からも続けるべきである。
- 競技時間が長い競技、特に午後部の大縄跳びは、競技する学年を絞って時間を短縮するべきである。今年度は失敗のたびにストップウォッチを止めていたので、失敗してもタイマーはそのまま 2 分間で飛んだ記録とした。
- 運動会に変化を付けるため、来年提案したい競技：二人三脚、借り物競争、借り人競走、縦割りリレー（午後部、各クラス一人ずつ代表を出し縦割りでリレーを行う）、
- 応援席は体育館後方（トイレに出ていく入口）にまとめたほうがよい。
例：左から低学年→高学年。
理由としては、誘導係が左右前後走り回らなくてもよくなり、誘導しやすい。
- 応援席に貼るクラス名が書かれた用紙は、トラック内からと応援席側の両側から見えるようにし、遠くからでも見えるように大きめのものを用意したい。
- 今年はステージが閉まっていたので、ステージ前に不必要な備品が集まってしまった。
来年は、確実にステージも開けてもらい、これらの備品は裏に一時保管したい。
午後の競技用具もすべて朝運び込むので、ステージ前に午前・午後・午前午後共通、で区切りをつけて用意しておく、各係が用意しやすいと思う。
- 応援席とフィールドを区切る紐が細すぎ、また子供の目の高さでとても危険であった。来年はもっと目立つ色の太めの紐、もしくはテープなどで会場づくりをするべき。

- 保護者が子供たちの応援席へ入ってしまうケースが多々見られたので、来年からは保護者席と子供たちの応援席をしっかりと区切るべきである。また、開会式の際の注意事項で明確に説明するべきである。

- 最後に：

今年度もエンジェルシーフードさんに景品のポッキーを支援していただきました。また、役員の方々と音響の方々には準備段階からとてもお世話になり、当日も素晴らしいお仕事をいただきました。心よりお礼申し上げます。